

松本山雅 FC サポーターミーティング in 塩尻

- ・日程：2016年9月19日（月・祝） 14：00～16：00
- ・場所：塩尻市レザンホール 中ホール
- ・サポーター参加人数：約40名

「司会」

皆様大変お待たせ致しました。定刻となりましたので、ただ今より、松本山雅 FC サポーターミーティング in 塩尻を開催致します。本日司会を務めます株式会社松本山雅営業担当小澤修一と申します。よろしく願いいたします。

まず始めに、株式会社松本山雅代表取締役社長神田文之よりご挨拶をさせていただきます。

「神田社長」

皆さんこんにちは。天候が悪い中お集まり頂きありがとうございます。昨日もしかしたら群馬に行かれた方もいらっしゃるかと思います。結果については色々言いませんが、お疲れ様でした。25日の清水戦に向かってクラブ一丸となって頑張っていきたいと思います。今年サポーターミーティングということで複数回開催させて頂いております。今日は育成ということで、なかなか意見が言いづらいといいますが、みなさんあまりわからないことが多いところだと思います。クラブとしてはドリームビジョン3つの柱の1つとして入っています。日々運営して私も思うところがありまして、一つは大前提として、育成普及の部分はクラブとして投資していることとなります。トップチームに上がった選手が現在、2種登録という形で3名いますが、まだまだトップチームで活躍するレベルに至っていないのが我々の育成組織にある中で、いずれ投資に見合う効果があがればいいという中でお金をかけている以上投資が続いていきます。その中で人が増えていけば金額も増えていき、その成果が表れるのが5年と言われても、5年目にあるかどうか分からない。その中でやっていかなくてはいけない、意味や意義は理解しているのですが、そこは当然みなさんと共有して頂く必要があると思います。他のクラブを見ていきますと、投資という意味でクラブもそこまでお金を割けない中で、地域の学校とか、特に私立が多いですが、学校と提携して子供たちを育てていくチームであったり、この前、サポーターズミーティングで加藤副社長からも話がありましたが、いわきFCという福島県で町と一丸となり育成組織からトップチームを作っていく、普及については安い金額で子供たちに還元していく、そこには親会社のドームがサプリメントや食事を提供していき、採算を合わせていくという色々な意味でビジネスとしてしっかり合わせていかないと厳しいものだ認識しています。山雅

もプロを目指して、10年ちょっと経つわけですが、長野県のサッカーレベルはまだまだだと実感しています。今年、長野県サッカー協会の副会長に就任させて頂いて、そこを加速させていく必要があると思うんですけども、やはりトップチームがこれだけ成長した10年で、長野県の育成がどれだけ進歩したかという、正直まだまだです。高校サッカー見て頂くとわかるとおり、長野県の高校が出場しても良くて3回戦というところなんです。中学校、小学校も似たような状況です。その様な中で、他のクラブと同じことをやっても5年10年追いついて終わりなんですね。私もやりながら思うところはありますが、非常に迷いがある状況です。せっかく皆さんのような熱いサポーターに支えられたクラブですから山雅らしい育成を日々私も考えていきたいと思ひますし、今日はその辺についても、改めてご意見頂ければと思ひます。本日もよろしくお願ひ致します。

「司会」

ありがとうございます。それでは早速、本日のミーティングテーマである、「松本山雅 FC ユースアカデミー」～普及・育成、強化についての議論に移らせて頂きます。今回は「普及」と「育成、強化」の2つの項目を設けてそれぞれの項目を出席者からお話を頂いた後に皆さまからご意見を頂く形を取りたいと思ひます。それでは、はじめに高橋理事長から松本山雅 FC ユースアカデミー全体のビジョンをご説明頂きその後普及活動の現状と課題、今後への展望をお話しさせて頂きます。

「高橋理事長」

皆さんこんにちは。松本山雅の高橋です。普及をメインに担当させて頂いております。いろいろお話したいこともありますし、いろいろな意見を頂戴したいと思ひています。時間の限りもありますし、簡単に山雅の普及の現状、課題、その前にユースアカデミーのビジョンを説明したいと思ひます。説明があまり上手くありませんがご勘弁頂ければと思ひます。

まず、このテーマということでユースアカデミーのビジョンを説明致します。昨年50周年を迎えるにあたって、松本山雅ドリームビジョンを発表しました。皆様に発表させて頂いたでいて、これからクラブはこうやって進んで行きますというものを、まずはわかって頂きたいということで、発表しました。そのなかで、3つの柱、ひとづくり、まちづくり、未来づくり、ということで、私どもは育成を担当していますので、ひとづくりの部分を担当しております。ここで、皆様もご覧になった方は沢山いるかと思ひますが、改めて、ドリームビジョンの映像をご覧頂きたいと思ひます。

<https://www.youtube.com/watch?v=EXZ9hbgmFBw>

すべての今後 50 年のクラブの未来像はここに集約されているのかなと思います。そのときに発表させて頂きましたが、我々のミッションのなかで 2 つの大きな柱があります。それは普及を通じた地域貢献と、プロ選手の輩出です。このビジョンを立てるときに、分科会を開催し、数多くのクラブ関係者やクラブ以外の関係者も集まり長時間議論したうえで出来上がっております。

環境整備、指導者の養成・充実、そして普及活動の拡大に向けて、社長も申し上げましたが投資していくこととなりました。その成果として、サッカーもしくはスポーツファミリーの拡大、プロサッカー選手の輩出、あるいは他のスポーツかもしれませんがそういった選手を輩出することを目指します。

今までの 10 数年はトップチームに投資してきました。それは皆様の支えもありますし必要なことでした。そして 50 周年を迎えて、やはり育成・普及の部分は非常に大事だということでこのようなビジョンを掲げております。これからの 50 年にむけてということで、いくつかの項目があります。他種目のスポーツ、幅広い年代、常にスポーツを楽しむ、気軽にスポーツが出来るということ。また施設の問題、行政との協力関係がなければなりません。ということ踏まえた上で人材育成に目を向けていきます。

今後クラブのイメージですが、健康に対してアプローチをしたいと思っています。健康になることで街が元気になり、街が元気になることで行政が元気になります。そして行政には環境整備をして頂いて、環境が整備され多目的、多世代の人たちがスポーツに関わっていく。その様なサイクルをクラブが作っていきたいと思います。

そして中心にあるのがスタジアムということです。スタジアムでこのような活動をしていきたいと思っています。

10 年後こうなっていきたいというところで色々あります。環境整備、指導者、普及活動、地元の選手、どういう選手を育てるか、地元のチームはどうなってほしいのか、クラブはどうあるべきか 10 年後の絵を描いています。あとは地域の活性化ということでいろいろな地域が元気になってほしいと思います。10 年後の姿のために 5 年後どうあるべきか、新しい取り組みも我々が中心に行っていければ良いと思います。

次に普及活動についてです。現状と課題ですが、松本山雅フットボールクラブと言いますが、全体がどういう構成になっているかということをお話します。まずは単発のサッカークリニック、幼稚園や保育園の巡回指導、それからスクールという定期的に開催されるサッカー教室です。

それが 6 箇所、未就学児から中学生まであり、ジュニアユース世代のスクールとして中学生の普及を今年から行っています。そのほかに GK スクールやヤマガールズという女子のスクールです。あとは育成のところで山崎ダイレクターに触れて頂きますが、チームとして小学生年代のジュニア、中学年代のジュニアユース、そして最終的にトップチームにつながっていく高校年代のユースチーム、このような構成図になっています。

我々が行うスクールの活動はより多くの子どもがサッカーにふれる機会を作ることを目的

に行っています。2015年度のスクール活動地域は5校で、547名でした。2016年度の目標は750名ということですが、実は今年から塩尻スクール校を開きました。場所は綿半フットサルパークと言うところです。スクールの子も達にもいろいろなことを経験してほしいということで試合コースも行っております。他のチームと試合をする、Jリーグのアウトツアーに行って現地で試合をしたり、その他に子供を対象にしたミニサッカー大会もしています。この様に様々な取り組みを行っていて、今後は山崎ダイレクターが一生懸命動いてくれますけど上伊那の開校、そして大北地区でも開校を目指しています。

次にクリニックです。これは単発でおこなうイベントですね。去年の実績ですが、巡回指導、幼稚園、保育園、学校を訪問して延べ2,437名の人にサッカーに触れてもらいました。ホームタウンイベントということで、ホームタウン担当と一緒にいろいろな取り組みを行い、一緒にサッカーをやった方々が2,437名になります。

ホームタウン活動とどう絡んでいるかという所で、巡回指導はユースアカデミースタッフとホームタウン担当と一緒に訪問しています。山雅田と言うのを聞いたことがある方もいらっしゃると思いますがアルウィン近くの田んぼに子ども達と一緒に田植えをし、稲刈りまで行います。

また、盲学校でブラインドサッカーの体験会が9/22にもありますが、山雅後援会とアカデミースタッフと一緒に開いています。以上が普及活動の現状になります。

これから普及に関する課題についてお話しします。先程も話しましたが、2つの柱があり普及による地域貢献とプロ選手の輩出を目指していきます。今後クラブが発展するためにこのような要素が必要になってくると話し合っています。やはり地域との関わりが大事だということ。今はアルウィンであったりアウェーのゲームであったり、普及活動ということでいろいろな機会に山雅に触れて頂いております。そしてそれ以外のところで山雅に触れて頂く機会を増やしていけばと思っています。ホームタウン活動の連携は先程申し上げた通りで、山雅ファミリーを増やしていきたい。そのためには気軽に参加できる活動を増やしていき、そのための施設を作る、借りる、管理するということ、これも先程言いましたが、綿半フットボールパークは中信地区で初めての民間の施設となります。我々も携わってお手伝いしてきました。これは自ら施設を作り出していくことの活動です。今までどおり公共の施設を使わせて頂くこともありますし、もしくは指定管理としてスポーツと触れ合う機会を創出する立場にいる事が大事かなと思っています。その中でタレントを発見、発掘をしていきトップチームに繋げていきたいなと思っています。

最後に普及活動の今後の展望として、今までの活動はサッカーがあって、クリニックや巡回指導があって、そこに所属・体験された子どもたちが山雅のチームや他のチームで活躍したりして結果的にプロを目指す、大学でサッカーをする、それ以外にエンジョイでサッカーをするという方もいると思います。今まではこの流れで活動してきました。今後いろいろなことを考える中で、必要になっていくことは、例えば他のスポーツとの協働、そして補欠ゼロ。これはサッカーだけでなくいろいろなスポーツに言えることです。やることに

楽しさを覚える。上手い子たちだけがプレーできればいいかというところと絶対違います。いろいろな人がサッカーを楽しんでもらいたいと考えています。社会的役割というところで、我々のほうでも今は不登校児童の子ども達へサッカーの指導も行っています。このような活動は継続して行きます。施設確保は先程触れた通り生み出したり、借りたり、管理したりということ。施設を創っていくことも確保といえるのかなと思います。そして先ほどのブラインドサッカーをはじめとする障害者スポーツにも目をむけていきたい。また、引退なしということで、例えば松本山雅のチームでプレーしていた子たち、小学生、中学生、高校生もしくはトップチームでプレーしていた選手たくさんいます。やはりサッカーには触れ続けてほしい、スポーツはやり続けてほしいということで、引退なしとして色々な世代に働きかけていかななくてはいけないと思います。それをまとめてどのようになるかということ、多様性ということでも他のスポーツを取り入れていくことで広がりを作れるのではないかな、山雅ファミリーを増やしていけるのではないかなと思います。それらの人たちが山雅のエンブレムの付いたシャツを着て多くの場で活躍してもらおうということが大事ではないかなと思います。それから多世代ということでも引退をしないように色々なレベルの人達が楽しめるようにする。それから障害者のみんなと一緒にやっていきたいと思います。これも大事だと思います。

そういう活動を通して、もっともっとクラブが発展していくのが我々のミッションだと思います。

最後になりますが、我々はスポーツ全体の底上げ、サッカーだけではないと思います。色々な刺激を子ども達に与えて環境を作っていく。もっとクラブに触れる機会を作っていく活動を今後ともやっていきます。このために何ができるのかを考えて常に行動していく必要があると思います。早口でしたが以上で普及に関する発表は以上とさせていただきます。

「司会」

ありがとうございました。続きまして山崎アカデミーダイレクターから育成強化について現状と課題、今後の展望をお話しさせていただきます。宜しくお願い致します。

「山崎ダイレクター」

山崎と申します。よろしくお願い致します。

今理事長の方から一番根っこの普及の話をして頂きました。その根っこの上にある子ども達をトップチームの選手に育てていくという、育成の部分の話を私からさせていただきます。この3連休にU-17は大阪堺にあるJグリーン堺のU-17チャレンジカップという大会に昨年に引き続き挑戦しています。今年もイランのチームや南アフリカのチーム、蔚山のチームと5つのJリーグの下部チームが参加しています。イランのチームには負けましたが南

アフリカのチームには勝ちました。そんな形でスタッフ、選手は努力を続けています。また U-18 の県リーグは、県ヶ丘高校と最終戦を対戦し、長野県 1 部リーグを 1 位で終了することができました。ただ、私達の夢や目標は県リーグで 1 位になることではありません。プリンスリーグで戦い、その上のプレミアリーグで戦い、松本山雅の日常のレベルをもっともっと上げていかなければならない。同じように U-18 の B チームは今、伊那で県 3 部リーグを戦っています。これは高校 1 年生、2 年生が中心でやっています。ただ、今日は大阪に行っているなのでこの試合は中学 3 年生の選手が中心で戦っています。小学生は柏で試合をしています。そんなことをやりながら日常のレベルを上げていきたいと思えます。さきほど理事長の話にもありました。ミッション、一番は地域貢献です。子供達の育成を通してこの地域を元気にしていきましょう。そのお手伝いをするのが私達松本山雅です。トップ選手の輩出と地域貢献は別物ではありません。その上に積み重なっていくものなのです。この地域にサッカーの文化を根付かせて、たくさん水をあげて、良い指導をして、大輪の花を咲かせてその選手がトップチームへ上がっていく。そんなシステムを作るのが松本山雅なのです。だから私達はこの地域のトップランナーとしての責任があります。そういった育成を受けた子どもたちはこの先、この地域のリーダーになっていてくれると思えます。

ドリームビジョンにもありました、まずは育成組織、ひとづくりです。この育成ビジョンは 3 分の 1 だけではなく、2 番目のまちづくりも関係してくると思っています。この街を作っていくのは誰でしょう。そう考えるとアカデミーが関わっていく人づくりは大切なのです。3 番目の多機能複合型街中スタジアム、このスタジアムで活躍する背番号 10 番は誰でしょう。アカデミー出身の「おらが選手」であるべきです。そういう意味でもやはりドリームビジョンに掲げられているアカデミーの役割がとても大きいということを自分は痛感しています。

このドリームビジョンを作成するにあたって私達はヨーロッパの先進諸国に研修に行ってきました。ドイツではブンデスリーガ 1 部以外でも地域に根付いて、活躍をしているチームが沢山あります。街の中心には教会とスタジアムがあり、そこに回遊性の高い街づくりをしていて、沢山の人がゆったりと流れています。そんな研修の中から私達は 3 つの事を持ち帰り、ドリームビジョンとして反映させて頂きました。

地産、地育、地活。先ほど映像に出た背番号 10 番がネットを突き抜けて、世界に羽ばたいていきます。そんな選手を私達は輩出していきたい。そのために、オンザピッチだけではなく、人間としての指導もしっかりと哲学をもってやっていかななくてはなりません。そのための各年代の指導のプロフェッショナルが存在しなくてはなりません。サッカーではよく質が大事と言いますが、その質ってなんなのでしょう。それは教えている指導者そのものなんです。やはりいい選手を発掘して、いい栄養を与えて、プロ選手へ育てていく。その為のスカウティングは大切です。あとは日常的にいい環境に置いてあげなければならない。だから県の一部ではなく、プリンスリーグではなく、その上のリーグで当たり前

戦っていかなければならないのです。そういう環境で戦うからこそ、人間的にも磨かれてこの地域が活性化していく。そんな事を考えています。

そんなドイツの研修の中で学んだ事からドリームビジョンを作成しました。その学びの中から私達は松本山雅筑摩寮を開寮しました。現在 19 名のユース選手が生活をしています。当然、遠方から来ている選手達です。プロサッカー選手になるために、親元を離れて遠方からやってきていますが、彼らは部活ではなくクラブ、つまり社会体育を選びました。彼らに退路はありません。自分の覚悟と意志を持って日々進化していこうとしています。

また、かりがねサッカー場が 2015 年に完成しました。これに関しては感謝しかありません。今までは各カテゴリーは全く別々の会場で練習を行っていて、1 つになりきれない状況でした。しかし、1 つのグラウンドになったことで、全ての選手を全てのスタッフが指導する事ができるようになり、指導現場がオープン化しました。それにより指導者が指導者を評価する事ができました。そして、すぐ隣ではトップチームの選手がトレーニングをしています。ピンと張りつめた空気の中、トレーニングが出来る。私達はそういう環境を手に入れる事が出来ました。トップチームが岸野監督率いる松本大学とトレーニングマッチを行っています。2 名のユース選手がこのトレーニングマッチに参加しています。先ほどもお伝えしましたが U-18 の公式戦を中学 3 年生が戦っています。なかなかできる事ではありません。こういう経験を積み重ねる事で日常のレベルを上げる事が出来るようになってきた。フィジカル、メディカルのトレーナーがアカデミー専属でつきました。かりがねに皆が集まる事ですべての年代を指導する事が出来るようになり、よりファミリー感を増すことができました。

そして、2016 年は皆様ご存じだと思いますが、岸野さんを再招聘をすることができました。去年トップチームでコーチだった柴田コーチ、GK コーチだった本間コーチ。そして、J リーグのトップチームで指導を経験したフィジカルトレーナーの柴田コーチや本橋コーチ、松本出身の丸山コーチ、富山から西野コーチら、トップレベルの指導者を招聘しました。寮から始まり、かりがねサッカー場、日々のトレーニングの環境を変えてきましたが、その取り組みの中で見えてきた事もあります。

まだまだやっぱり 1 面では足りない、ジュニアとジュニアユースは 4 分の 1 ずつ使っています。フルコートの経験が日常の中では経験する事が出来ないという現状があります。冬のトレーニング、雪が降ったらどうするか、雪をかくしかありませんが、なかなか練習場を満身に確保する事はできません。この問題はこれからも続きます。そして今のレベルでいいのか、良いわけはありません。各年代の入口で質を上げていかないといけない。ちからのある選手が松本山雅の門を叩く。そういう組織になっていかなければいけない。スカウティングとセレクションを見直す必要があります。日常のレベルアップを自分自身に求めていかなければならないと思っています。それと同時にやっぱり県リーグではなくてその上にならなければなりません。アルビレックス新潟、カタレ富山は北信越でやっています。どっこいどっこいの試合はできるようになってきましたがクラブユースで戦った結

果は0-3でした。やはりそれは日常の差だろうなと思いました。

最後になりますが、トレーニング環境、皆さん、良い知恵ありませんか。もっといい練習環境、指導者の質の向上、私たちの常識を越えていくようなそんな取り組みってできませんか。世界基準を目指したい。育成強化への先行投資、地域の指導者と手を繋いでいい選手をお預かりして僕たちが育てていけるか、そんなシステムを構築していくことが大事だと思っています。

スクール活動で子供達は夢を追いかけています。ジュニアの選手も長野県で優勝するようになってきました。ジュニアユースの選手達は北信越を目指して戦えるようになってきました。高校生は今、全国の舞台で戦っています。雪が降ったら私達は雪もかきますし、頑張っていきたいと思っています。皆さんもアカデミーの活動に関していい知恵があったら是非お貸し頂下さい。

「司会」

ありがとうございました。それではここから質疑応答に移らせて頂きます。

「質問者 1」

素晴らしいアイデア、プラン。将来に向けて非常にいいなと思いました。以前会長の大月さんにサポーターは何をやったらいいんだと聞きました。サポーターは日々何をしたらアカデミーの将来のビジョン実現にむけて何ができるか。大月さんにはアルウィンに来る人を増やすことだと言われました。スタジアムに行ったり、グッズを買ったりはサポーターにできることだと思います。アカデミーのビジョン達成にむけては何が出来るのか、これやってくれということがあれば教えてもらいたいなと思います。

「高橋理事長」

ありがとうございます。若干個人的な意見が入りますが、ご賛同頂けるならば、このビジョンや考えを広めてもらうことだと思います。直接指導や、施設を作っていただくということは難しいと思います。松本山雅のスクールやクリニックなんかをご自分のお知り合いに伝えて頂いたり、もし募集しているイベント等があればそれを広めて実際に参加して頂くということが我々の求めているところかなと個人的には思います。

「神田社長」

こういう場を設けることがクラブのスタイルであり、考えて頂けるサポーターが多いのがこのクラブの良さだと思っているのが大前提です。そういった中でドリームビジョンを作る前にドリームプロジェクトという公開会議をしていたのですが、その時も皆で夢を描いていきましょうという事で、クラブで事前に調査や資料は用意していくのですが、最終的には共有して話し合っただということが大事だということをおもいました。今、高橋理事長がお伝えしたようにクラブの意図をご理解頂ければおそらく皆さん同じ方向で考えて頂けると思いますし、具体的に何かというのはなかなか難しいのですが当然、クラブを応援して頂ければそれが先に繋がっているということだと思っておりますので引き続きご支援を頂ければと思っております。

「司会」

その他にございますでしょうか。

「質問者 2」

Jリーグの堺、クラブユース選手権、県1部などほぼすべて見に行かせてもらっています。どんな事が出来るのかという先ほどの質問にもありましたが、僕の中では見てあげるといことはできるかなと思います。情報発信に関してクラブとしてどういう規制を設けているのか気になるのですが、例えばマリノスさんだと、トップもユースも1つの冊子になって選手名のリストになっています。ホームページもわかりやすくできている。コンサドーレさんだとTwitter上で選手の情報からメンバーの発表を細かく実況しています。僕らの中だとハッシュタグをつけたりして、仲間たちが情報発信をしています。チーム側からそういう余力はないかと思いますが、個人のプライバシーの問題もありますがどういう発信をしていくべきか、選手の個人名を出したり、得点者や例えば写真等も含めて、僕らはどこまでやってしまっているのか、というところが気になる場所です。これからどこまでチームとしてどのような露出をしていくのか、情報発信する事で注目も集まるということもありますし、今日の課題の1つではないかと思っています。以上です。

「山崎ダイレクター」

貴重なご意見ありがとうございます。クラブとしても、アカデミーの情報をどれだけタイムリーに発信できるか、実は今までオンタイムで情報を発信することもままならなかった状況を皆さんに理解して頂いてる中、マンパワーがまだまだ足りない中ではありますが、今日の情報は今日のうちにという意識など、少しずつ改善をしていっているつもりであります。さまざまなSNSを駆使してタイミングよく発信していくのかは、もう少し皆様の心

あたたかいサポートを頂かなくてはなかなか難しい状況かなとも思っております。それも含めてクラブの力だと思います。今頂いた意見は、実はまだ本当にクラブに足りない部分で、持ち帰らせて頂いてこれからのクラブ全体の取り組みのところに反映できたらと思います。ありがとうございます。

「質問者 3」

今の方と同じ部分があります。広報みたいところで言いますと、かりがねの練習試合を見たあとに、隣の人工芝では U-14 の試合をやっていたみたいで、HP をみても U-18 は把握しているのですが、今日隣りで試合があったんだと思いました。そういう意味で U-18 以外のチーム情報はほとんど発信されていないので、やるのであれば、初耳だった先ほどの柏の遠征の件も含めて、まとめてやるべきだと思います。逆に手が足りないというのであれば、ある程度興味のある人は自分で調べようとか、そこら辺のサイトからの情報を吸い上げる人もいるので、それらの情報を山雅の方がチェックしてくれる投稿サイトがあって、いったんそれを上げて、掲示していい、ダメという判断をしたものが載るような、投稿サイトがあればいいと思います。情報をかき集めるのはサポーターがやるので、それをダイレクトにクラブの公認の情報として発信できる場所があれば、クラブとして OK、NG という判断をしてくれれば、もう少しお手伝いしやすいのかなと思います。実際、現地の大会に行くこともあるので、そのときにある程度、ガイドラインのようなものがあって、ここまでの線を守ってくれれば公式な情報として扱えるので、こういう形でやってくださいとあらかじめ公表しておいて頂ければ、手の足りない方に代わってできるのではないかと思います。

もう 1 点、補欠をゼロという話があると思いましたが、選手としての補欠ではなく、将来的に山雅の広報やスタッフをやる子がいても良いのかなと思いました。サッカー選手としての技術は足りないけど、気が利く子や事務的作業は割りとやれる子がいるのであれば、むしろそういう子をスタッフとして育成していくというのはありなのではないかと思いません。それが結局、トップチームに上がれなくても、むしろ人材として有効に活用できる道じゃないかと思いません。さすがに小学生以下の年代では厳しいとは思いますが、現地での情報発信をベンチにいる子にやらせてしまうとか、ネットリテラシーのような教育も必要だと思いますが、サッカーをやりながらスタッフとしての人材育成ができるのではないかと思います。

もう一つ、吸い上げという意味で、こういうことができるのでやらせてほしいということがあります。例えば遠征のときにスカウティングじゃないですけど、ついでに映像を取ってくるとか、大学生の映像を撮ってくるみたいなことはできると思います。大学生やユースの子どもたちを観に行って、映像をあげるということができればいいのかなと思います。そんなにたくさんスカウトの人を雇えるはずも無いので、その代わりクラブとして、募集

してますと言ってくれば、今は個人的に見ていい選手だなで終わっているのですが、ついでに観に行くことができる人は大勢いると思いますので、自主的にやってもらったら情報としてくださいということができるかなと思います。付随して、綿半さんのようなことをやってくれるような企業の情報を集めたり募集する投稿サイトみたいなものがあれば気軽にアップできそうだというものがあれば、やれると思うんです。クラブとしてできないという判断をしてもらおうという形で良いかなと思います。上記のようなものをどんどんアップできる投稿サイトなどがあれば積極的にサポーターからもやり取りができるし、クラブとしてもいいかなと思います。

「神田社長」

たくさんのご意見ありがとうございます。特に以前のサポミでもお伝えしたのですが、広報についてはクラブとしても未熟だと思っていて、サポーターの方からも厳しいご意見も頂いており、今、昔と比べて少しずつクラブからの発信が増えているのではないかなと思います。投稿サイトみたいなモノは面白い発想かなと思います。情報を精査して発信していくのはクラブとして責任があるので、どの程度の人がその情報を求めている、それに対して供給していくというのは、その数に対して判断をしていくことが必要ではないか思います。

例えばユースのユニホームにスポンサーがつかしました。現場の人はどちらかというと現場に集中しがちになるのはサッカー界のいいところでもあるのですが、ひとつの事業として考えると、露出があるからスポンサーが増える、収入が増え、それが結果的に指導者の人件費になるところまで考えた上で、情報発信するというのを本来は会社として考えるべきかなと思います。そういう意味でユースの広報での露出は増えてきたと思います。ジュニアユース、ジュニアまで含めて情報が欲しいと言って頂けるとことはありがたい話なので、それに対してクラブがどこまで体制を組めるかというところは、せっかくの機会ですので検討したいと思います。興味を持って今回のような意見を頂くことはおそらく珍しく、今日集まって頂いた方もそうですが、やっぱりトップチームの話をする時と育成の話をする時では集まり方、興味のある方絶対数が違うものだと思いますので、そこは逆にクラブが情報発信をしていくことでその数がどんどん増えていくことになるとも思いますので、考えていきます。

そういう意味ではオフィシャルではないのですが、SNSでの試合の結果、速報なんかは、昨日もアルティスタ東御さんの試合結果が気になっていろんな情報サイトを調べたのですがなかなかなくて、2ちゃんねるなんかをみれば速報が載っているというのは、現実としてこの世の中あることなので、是非皆さん山雅の情報なんかを見つけたら、結果を含めて発信していただければありがたいなと思います。スカウティングについては、投稿サイトと同様に色々な情報を集めることは大事ですし、クラブとして実際に情報を頂いた過去もあ

りますし、個人的にサポートして頂ける分には大変うれしいですし、クラブとしてそういう接点を持つていくことは大事なかなと思います。綿半フットサルコートは事業としてどうなのかとしっかり見ていかないといけないと思います。公共の施設よりも高額な利用料を払って、そこに子供たちを集めて運営しておりますが、その採算が合わないと事業としてこれ以上広げられない。ただドリームビジョンでも示しているとおおり、育成の拠点を各ホームタウンにというのは目指すべきところでもあるので、民間なのか行政なのかという話はあるとはいえ、増やしていかなくてはいけない部分かなと思います。

「高橋理事長」

補欠ゼロの話が出ました。クラブの構造上、スクールからセレクションを経てチームに所属します。補欠というところはこのチームに関するところかと思うのですが、クラブのスタンスとしては、全員に均等に試合の機会を与えて成長を促していくというスタンスです。いわゆる補欠を作らないという活動しております。Jリーグの方で展開しているのですが、「よのなか科」という中学2年生を対象とした講習をやっています。後ろにいる小林陽介さんもファシリテーターとしての資格を持っています。よのなか科では何をやるのかというと、サッカーの世界には選手以外に色々な職種があります。社長やダイレクターもそうですし、広報やグラウンドキーパーもそうです。ではサッカーに携わるということはどういうことなのかというところを、この講習を通して子供たちに啓蒙を促す場としています。山崎ダイレクターのプレゼンでもありましたが、人材育成をしていくというのはクラブのミッションとして捉えています。ご指摘頂いた通り、我々も同じ思いで、そういうことを考えている。まだまだ結果に結びついていないところもあるかもしれませんが、そういうことも考えながら皆様と一緒に進んでいければなと、今はそういう風に思っております。

「質問者4」

今日はいい話をたくさん聞ける事ができました。ありがとうございます。環境整備、指導者育成、充実ということでそのなかで、これからのビジョンとしてはどのようにしていくかということをお聞かせ下さい。やはり世界のトップのチームの色々なところをみたり本を読んだりするなかで、考えていると思うのですが、教えて頂ければと思います。

「山崎ダイレクター」

ありがとうございます。指導者の養成というか指導者のレベルアップということに関してですが、先ほどのパワーポイントでも示させて頂きましたが、私たちは今までずっと、アカデミーが本当にまだまだこれからという時代を支えてくれていた大切な仲間のことを忘

れては行けないと思います。しかし、それだけでもダメですし、外から新たな知識、経験を持った方がこのクラブを、このアカデミーを、スピード感をもって変えていかなければならない。そのタイミングが2015年の50周年であって、これからの50年に向けて、ドリームビジョンにあるように、そのために新しい人材を連れてきました。ユース、ジュニアユースの選手にいい刺激を与えるようになりました。しかしながら、今おっしゃられたとおり、その指導者がさらにその質を上げていくためどんなビジョンを持っているか、といった時に私が足りないなと思うところは、アカデミースタッフは何を目的にやっているのといったら、先ほども示したとおり、地域貢献とトップチームに選手を輩出しないといけないのですが、その2つ目のトップチームの選手輩出のために、トップチームスタッフと有機的に繋がるような議論をして、同じベクトル同じ方向を見た指導をすることが大事なのかなと思います。ただそれに関しては、なかなか構築できていない現状があると思います。それは、さまざまな要因がありまして、今年初めて3人の2種選手をトップチームに登録させることが出来ましたけれども、今までは場も無く、人材も無く、そんなことを考える必要も無く、トップチームで選手が足りないときは松本大学から選手を借りるという現状でした。それが少しずつ変わってきましたけども、指導者同士のディスカッションだとか方向性の確認だとか、強化部との連携はまだまだ出来ていないのでこれからはそういったことにも取り組んでいきますし、ヨーロッパの力のあるチームや国内でもオリジナル10といわれるようなクラブは、そういうところが出来ていると私は思っています。あとはやはり、社長とも話をしましたが、もっと研修の場をとということです。私達が学ぶことをやめたら選手の前に立つことをやめなくては行けないと思います。私たちサッカーの指導者はいろんなことを教えられて選手たちの前に立っています。自分たちが研修をする場をもっと作り出して、いつになっても人前で自分を評価してもらい、自分の指導をさらけ出すということは得意ではないし好きではない。できればやりたくない。しかし、松本山雅のユースアカデミーを加速度的にスピードアップさせていくにはそういう取り組みもしなくては行けないのではないかと考えています。

「神田社長」

貴重なところを突っ込んで頂いてありがたいなと思います。育成の指導者について、一番は人を育てる部分の熱意があるということ、これは大前提です。次に専門的な知識にもとづいたプロフェッショナルな指導をして頂きたいと思っています。今、山崎が申したような研修も含めてレベルをあげていく必要があると思っています。今年、昨年までトップチームにいた柴田コーチにジュニアユースに入ってもらって、トップチームとの連携はもちろん、育成年代でかなりの実績を残された方にユースアカデミーに入ってもらくことによる刺激を求めました。うちのスタッフは皆まじめで日々一生懸命やっています。私も含めてかは分からないですが、信州の方は真面目で、コツコツとやっていくのは得意なのですが、

一足飛びに新しい刺激を求めて積極的にやっていくことが大事だとも感じています。去年は、ドイツからポレンスキーという指導者を研修で招聘しました。長野県じゃなくて、日本じゃなくて、フットボールの先進地域から学びたいと思っています。短期でもドイツという国から指導者を呼んでくるメリットがあったと私は感じていて、今後も継続していきたいと思っています。

「司会」

ありがとうございます。その他にございますでしょうか。

「質問者 5」

1つの質問と1つの提案です。質問ですが、東京の人に、何故松本には1万2000人も毎回人が集まるんだという質問をされます。答えが見つからなくて、他に楽しみがないんです、なんて答えを言っています。今日の話のなかで、松本山雅アカデミーらしいということをやりたいとの話がありました。自分たちが自分たちの良さを知らない、強みに出来ていけないと思いますが、自分たちでどこが松本山雅アカデミーらしいと認識しているか教えて頂ければと思います。

「高橋理事長」

ありがとうございます。核心をつくご質問を頂きまして、ありがとうございます。2003年からこのアカデミーの活動を始めまして、最初は全会員数45人というところからスタートしました。言い方が適当か分かりませんが、お金も無く人もいない、練習する会場が無いところから始めたのが事実です。2004年にNPO法人を取得して、まずはトップチームを上ステージへ上げていくことが私たちのクラブの目的ということで強化をしていきました。その中で、アカデミーへ人材、資金を投資することはなかなか出来なかったということもありました。また、このトップチームも含めてこのクラブの一番良いところは「ボトムアップ」の部分であり、サポーターの皆さんがここまでクラブを成長させて頂いたと僕は信じています。地道に積み上げていくのが山雅らしさなのかなと思っています。そういった意味で言うと、J1を昨年経験して、じゃあ育成年代はどうなっているんだと考えた時に、じゃあこのままボトムアップだけで良いのかというと、そうではなくて、先ほど社長が言ったように、良い刺激を指導者に与えていくのが今後の山雅のアカデミーらしさだと思います。一昨年ぐらいまでアカデミーは会費のみで運営しており、指導者の給料もなかなかあがっていかないという状況でした。そういった時期を支えてくれた先人の努力があって今があると思います。ボトムアップの良さを残しつつ、新しい刺激を与えていくとい

うのが今後の山雅のアカデミーらしさだと思います。

「山崎ダイレクター」

やはり地域や街全体で一丸となっていること、今日もこれだけの人が集まって意見を出してくれている、僕達の背中を押してくれているというのが私達のストロングな部分、強さだと認識しています。

「神田社長」

私が思うにクラブ全体がそうで、トップチームに憧れて出来あがっているクラブなんだと思います。アカデミーのチームのサッカーを見ていても分かりますが、トップチームに似たようなサッカースタイルなんです。育成のスタッフたちも、反町監督を目指すというか、アカデミーの選手たちもみんなアルウィンの光景を見ると感動しています。みんないつかアルウィンでプレーしたいというのがモチベーションになってしまっている部分はあるのかなと思っています。内部では話をしているんですが、もしトップの監督が変わった時でもアカデミーとしてどういうサッカーを目指すのかと言うことは、今突き詰めていかないといけないと思います。アカデミーの選手たちは素直で真面目ですが、他のクラブを経験した方からすると、真面目すぎる、応用力が効かないというところがあるようです。良い部分は残しながら、アカデミーの良さについて模索しているところなのかなと思っています。

「質問者 5」

次に提案ですが、25年前に子供が地元の少年団に入ったときに保護者会長をしていました。卒団生が指導者になったり、親になったりしています。今の指導者に話を聞いてみると、いい子を山雅に持っていかれるという感覚があるそうです。山崎ダイレクターの教え子からも、「山崎先生は山雅に行っちゃった」という声があるそうです。そのあたりのスポーツ少年団と街クラブとの関わりをもう少しうまくやるのが大事なのではないかと思います。自分たちのところにいる選手を、「この子を自分のところでは育てきれないから、山雅で見てくださいか」という形になるのが、先ほど話に出た地域のトップランナーの形ではないのかなと思います。地域の指導者や審判も山雅が育てる、自分達だけで選手を発掘するのではなく、他のクラブから預けてもらうような関係になればいいのではないかと思います。トップランナーという位置づけを考え直すと活路が開けるのではないかと思います。

「山崎ダイレクター」

貴重な意見をありがとうございます。良い選手を山雅が持って行ってしまう、そういう

発想がある事は私たちも良く耳にします。だからこそ私たちがその環境を変えたいと思っています。力のある選手を、力のある指導者が良い指導を一環指導していくという環境は、この地域ではまだできていません。自分たちのクラブの選手を山雅に預けて、プロの選手になって、またこの地域に帰ってくるような、大きな流れを共感してもらえるような仲間を増やしていかなければならない、そのためにこの地域のトップランナーとして山雅がやらなければならないことはまだまだあると思います。そのためには松本山雅だけが強くなるのではなくて、この地域にサッカーの文化が根付くような地道な取組から目をそらしてはいけないと思います。地域のスポーツ少年団、指導者とどのような関係を築くことができるのかとても大事なことだと思います。そこは待っていても歩みよってはくれないと思います。自ら入り込んでいく、自らが地域に染み込んでいく、その地域をみんなで変えるような空気が必要だと思っています。その辺りは、人間関係があつたりとすぐには進まないかもしれませんが、目を背けていては10年たっても変わらないと思っています。

「神田社長」

ありがとうございます。今ご指摘頂いたことは、柴田コーチと立ち話で何年も前から話していたことです。スクール生を増やしたり、地域の指導者と繋がりを持つことは、会社でいえば営業と同じだと思っています。色々な人間関係のパイプを作ったり、アプローチの仕方が不器用なところもあったかと思っています。そういった面は今変えている部分ですので、少しお待ち頂ければと思います。

「高橋理事長」

アカデミーを立ち上げる時には、かなりそういった事を言われました。「山雅がJリーグのチームを立ち上げて良い選手を持っていくのかよ」と。私たちはそういった事はしませんでした。そうしたら、最近になってやっとその氷が溶けてきたかなという感じは受けています。試合をしたり、地域の指導者たちと色んな大会を開いたり、そういった事がやっと最近出来てきました。社長が先ほど言ったように、そのスピードをもう少し早める必要がありますが、ご指摘のようにそういった部分にしっかり目を向けていきたいと思っています。

「司会」

ありがとうございます。それでは、その隣の方お願いします。

「質問者 6」

今日は貴重な時間をありがとうございます。話は変わりますが、今年スクール塩尻校で「ヤマガールズコース」ができましたよね。松本にはシュロス松本という女子クラブがあります。女子サッカーとは今後どう関わっていくのでしょうか。長野県の女子サッカーの盛り上がりは、なでしこジャパンがワールドカップで優勝してからここ 5 年ぐらいじゃないでしょうか。これから松本山雅として女子サッカーの普及、他の女子クラブとどう関わっていくかお聞かせ下さい。

「高橋理事長」

貴重なご意見ありがとうございます。まず「ヤマガールズ」が今年できたということで、以前からサポーターの皆様には山雅は女子サッカーはどうするんですかとよく聞かれます。今まで大きな壁になってきたのは施設と指導者でした。施設という部分では、綿半フットサルパークは施設として有力だなと思っています。まずは我々がチームを作って行くという事では無く、サッカーに触れて頂く普及の機会としてヤマガールズを作ったということがあります。先ほど名前が出たシュロス松本さんですとか、他にも色々なチームがあります。そういったチームの方々と話をすると、皆さん女子サッカーの人口を増やし、普及していくことがまずは目的ですと口を揃えます。山雅としても普及を目的としてそういうことをするなら我々も協力していきたいという、了解というか、コンセンサスを得た中で始めたというのが今までの経緯です。今後どうしていくかということは、今はまだ何も決まっていません。我々も話し合っているところです。果たしてチームを持つのが良いことなのか、クラブとしてビジネスに繋げていくのか、それができるのかできないのか。今は女子サッカーの普及に力を注いでいくのが一番だと考えております。

「司会」

その他にございますでしょうか？

「質問者 7」

今日はこのような時間をありがとうございます。一つ質問と一つのお願いです。先ほど引退無しということがあげられました。まだアカデミーからトップに昇格した選手はいないです。今年、二種登録の選手が出ましたが、トップに昇格するという話は聞かないです。アカデミーを出た選手が大学でもまれて、大学を卒業したあとにトップチームに戻す、選手をずっと追いかけるということは考えているのでしょうか。

お願いの方ですが、サポミの議事録を早く出してください。サポミの議事録が上がるのが遅い印象があって、1月のサポミの議事録が6月か7月ぐらいに出た印象です。こういった

情報というのは、早いのが一番です。普通の会社だったら 2 週間たって上がってなければ怒られると思います。みんな待っているはずなので、出来るだけ早くお願いします。

「神田社長」

ありがとうございます。まずは議事録の件はすみません。私の責任だと思っています。1月のサポミ（in 安曇野）の議事録は6月に上がって、次に行ったサポミ（in 山形村）の議事録はあつという間に上がったという情けない状況でした。すみません、今回の議事録は早く上がると思います。

質問については、チーム統括本部が担当する部分になります。南テクニカルダイレクターがいて、今年から江原スカウトが常勤になりました。加えて柿本アンバサダーも兼任として加わりました。スカウトの面が手厚くなり、大学サッカーを中心に動き回っています。「引退無し」というのはグラスルーツとか子どもからシニアまでサッカーを続けられる環境を作ることをサッカー協会としても課題にしています。クラブとしてもそういった活動に繋げていければと思っています。アカデミーを卒業してからということでは、松本大学に岸野監督を派遣させて頂いているということ、アルティスタ東御さんに小林慎二監督を派遣させて頂いています。まずは地域ネットワークに関わって、大きい意味での育成に関わる意図で派遣をしています。色々な網をかけて、子ども達を育てていければ良いなと思っています。

「山崎ダイレクター」

現状では大学4年間が最後の育成の場なのかなと思います。ヨーロッパではU-19（19歳以下）というカテゴリーやU-21（21歳以下）というカテゴリーがあります。日本では以前はサテライトリーグがありました。今はJ3にU-23（23歳以下）が入っています。今は大学サッカーにその部分のカテゴリーの育成強化を全てお願いするしかないような状況です。そのような中でアカデミー出身の選手、今回でしたら3名の二種登録選手がいますけどもその選手はクラブとしても統括本部、強化の担当と定期的なミーティングを重ねています。今後の動向などの情報交換をもって、見続けてトップ昇格が実現できたらすごく嬉しいなと個人的には思います。

「高橋理事長」

普及の立場から一言お話しさせて頂ければと思います。

色々な選手を追いかけているというのは事実なところですが、もっと言うと年代を下げていきますと今は小学校4年生からセレクションをして、中学生に上がる時にセレクションし

て、高校に入る時にセレクションしています。例えば、我々のチームの選手はいつでもかりがねで見れるのですが、他のチームに行ってしまうと、気になる選手は大会を観に行くことで状況を把握することができます。昨日も見てきたのですが、卒業した選手もサッカーを続けていければ良いなと思いますし、先ほどの引退ゼロという話には色々な意味が含まれています。私も 50 過ぎていますが今はサッカーやらないかといいますと、まだプレーもしています。そのような世界を作りたいなと思っています。色んなカテゴリーやレベルのサッカーがもっとあってもいいのかなと考えています。

「司会」

お時間の都合上次の質問で最後にしたいと思います。

その他にございますでしょうか。

「質問者 8」

一つ目はどこかのクラブがトップチームに合うサッカーができるように、年代ごとにできることを定めているそうです。山雅にはそのようなモノはあるのでしょうか。

二つ目は、かりがねができてトップチームは体を鍛える設備があると思います。アカデミーの選手たちは基礎的な部分を鍛えられる施設があるのかなと思います。

三つ目はサポーターミーティングの話です。1 月末にチームの戦い方とか、戦略とかあまりオープンにするのはどうなのかなと思います。1 月の段階で選手の話しやチームの戦略面の話しとかをすぐに議事録とかで挙げてしまうと、他のチームがそれを見て山雅がどのような戦略を練っていたり考えているか、そのような情報が表に出してしまうと思うんですね。その辺は少し遅らせたり出さないのも一つの戦略なのかなと思います。

「高橋理事長」

ありがとうございます。まず私の方から年代別の指針がトップチームのサッカーを含めた中であるのかというところで先程も少し話しましたが内部で山雅スタイルのアカデミー版もありましてそれは完全なものではありませんが設けております。年代別でできないこと、この年代ではこれくらいのレベルをクリアされているべきだという指針もあります。

アカデミーに対する審査も J リーグの方であるものですから、完全なものではないけど作っているのは事実です。これはもう少し制度を上げるとか細分化していくとかそのような作業も必要になってくるのかなと認識しています。

よくトップチームのスタイルが山雅スタイルだとか言われますが、アカデミーのなかでもトップチームのスタイルを落とし込んだ山雅スタイルがあります。

「山崎ダイレクター」

二つ目に質問頂いた施設についてですが、トップチームのクラブハウスには体を鍛える器具があります。基本はトップチーム優先ですが、安全に、怪我のないように器具を大切に使うということで、アカデミーにも使用を認めて頂いています。U-18選手とリハビリ組みを中心に活用しています。

ただこれで良しではなく、今後もっと良い環境を整えていく努力を良いものをしていかなければならないと思います。

「神田社長」

議事録については、フォロー頂いてありがとうございます。今年1月からサポミを何回か実施することを発信して、クラブの中で担当が変わりました。そういった意味でそこは単純に遅くなった業務だと私は認識していて、その担当がクラブの経営に配慮してあえて送らせていたかは確認していませんが、そのような配慮だったら担当にも謝らなくてはいけないなと思います。

「質問者9」

最後にいいでしょうか。

今日は早めに来ていたのですが、この集まりが現実なんだと思います。塩尻でいえば小松憲太さんの出身地であり、U-18で指導している臼井監督は塩尻出身だったと思います。仮に、その二人がここに並んで話しをしていけばもっと地元の人達が集まって頂けたのではないかと思います。サポーターミーティングの在り方も一考すべきところではないかと思えます。

二つ目はかりがねサッカー場で偶然、柴田コーチの解説を聞きながらジュニアユースの練習とU-13の金沢との試合を見させて頂くことができました。まだまだチームとしてこれが現実だと話しを聞きながら見させて頂いたことがありました。やはりアカデミーやユースの練習を保護者だけではなくて、平日でもトップチームの練習を100人を越える人が来ているものですから、その人達にも子ども達の練習状況を見てくださと呼びかける必要があるのではないかと思います。

先ほど、地域のスポーツ少年団の指導者と氷が溶けだしたという話もありました。松本地域、長野県のサッカー文化の向上を果たしたいというならば、各地域のサッカーチームの指導者を一同に集めて、指導者サミットみたいなことをできればと思います。山崎さんや岸野さん、柴田さんが話すような場を設けて、多くの市民に浸透させていくのが良いかと

思います。

山崎さんのお話もありました通り、塩尻には綿半フットサルパークがあつたりします。かりがねにクラブハウスがあると考えと、かりがねにもう一面人工芝でいいからほしいのではと思います。

確かあの周辺で土地区画整理事業がはじまります。山雅のサポーターでもって、防球ネットをつけたグラウンドをサポーターの力で買っちゃいましょうと思うんです。

とはいえあのクラブハウスも募金を募りましたが目標の 7 割しか達成できなかったという現実があります。これは株式会社松本山雅のマーケティング不足だと思います。自力はあると思います。そんなことを是非これから先考えて頂きたいと思います。

「神田社長」

サポーターミーティングの開催方法についてはご意見ある通り一考すべき部分もあるのかなと思います。今年はまず各ホームタウンを回りたいのとテーマを絞ってやるということで変えている点です。もう少し出演メンバーも検討する余地はあつたのかなと思います。今日はじめて午後の時間にやってみました。それが良かったかは振り返り含めて、見直したいと思います。

指導者サミットは内部で話も出ていました。是非実現したいと思います。

かりがね周辺の田んぼについては秋の収穫が一段落したところで農家の方に話しかけてみようと思つたと山崎さんと話をしていきたいと思つています。

「司会」

ありがとうございます。それでは最後に山崎ダイレクターより一言頂きたいと思つています。

「山崎ダイレクター」

今日は貴重なご意見ありがとうございました。普段はアカデミーのこれからのことをクラブのなかで、話し合っています。今回は沢山の意見を頂き、考えていることと、頂いた意見が一致していることも沢山ありました。当然簡単に実現できるものはなく、頂いた意見をクリアしていくのはとても大変ですが、だからこそやる価値のある取り組みだと思つています。今日は多岐に渡るご意見、提案ありがとうございました。これからは活かしていきたいと思つています。

「司会」

それでは高橋理事長お願いします。

「高橋理事長」

今日はどうもありがとうございました。2003年にこの組織をスタートさせたなかで、どちらかという影の存在としてやってきたかなと思います。我々からも情報発信をさせて頂く、そして皆さんからも我々と違った視点からの意見を頂くことがどれだけ大事かと改めて思いました。今後のクラブの運営に活かしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

「司会」

それでは最後に神田社長よろしくお願いします。

「神田社長」

本日はお集まり頂きありがとうございました。私は株式会社の社長に就任して2年目になりました。株式会社の方も現場の社員、スタッフ含めて少しずつ身近な課題に向かって変化させていこうということで何かしらアクションをおこして行きたいと思います。NPOのアカデミー組織に関しては私もまだ勉強している状況で、まだまだ勉強中です。私もサッカーの畑で育ってきた人間ですし、ここに対する思い入れは人1倍以上だと思います。いろいろやらなくてはいけないことを感じている中で、まだまだ実現できていない自分に歯がゆさを感じている面が出てしまったのかなと思います。今回のようなきっかけで少しオープンにできた部分もあるので、まずはクラブの内部の人間でしっかり体制を作っていくことから始めて、皆さんのご意見を反映できるようにしていきたいと思いますので、今後ともクラブへのご支援をよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

「司会」

以上をもちまして、松本山雅 FC サポーターミーティング in 塩尻を終了させていただきます。次回は10月に大町市で開催を予定しています。時間会場等はまたホームページ等でお知らせ致しますので是非ご参加頂ければありがたいと思います。今後とも松本山雅 FC への熱いご声援をよろしくお願い致します。